

予防消防に努め、さらなる訓練の充実と士気の高揚を

平成24年度春季消防検閲式

春の青空に恵まれた4月29日、只見中学校前の駐車場を会場に、春季消防検閲式が行われ、消防団員165名、婦人消防隊員30名とポンプ車3台、小型動力ポンプ付積載車9台が参加し動しました。

検閲官の目黒町長による検閲宣言の後、閲団、通常点検、小隊訓練、機械器具点検、分列行進などが行われ参加団員の機敏で正確な動作が披露されました。

検閲官による訓辞講習では、「消防は地域住民の生活安定向上、生命財産を守る重要な役割を担っています。今後も奉仕的消防精神を堅持され、予防消防に努めてください」と述べました。



▲検閲官による通常点検

続いて、表彰及び感謝状の贈呈と来賓の方による祝辞がありました。また、受賞者を代表して第1分団第3班の酒井雅喜分団長から「消防精神の士気高揚と消防活動の充実に努力します。皆様のご指導をお願いいたします」と謝辞が述べられました。受賞者は次の方々です。

(敬称略)

【消防団長表彰】

●優良章

長澤文男(只見)、新国透(只見)、五十嵐一幸(福井)、渡部典高(小川)、渡部秀人(小川)、増田良(只見)、菅家強生(黒谷)、吉津明(長浜)、目黒良二(熊倉)、皆川雄三(熊倉)、酒井俊夫(亀岡)、飯島治(坂田)、佐藤雅幸(小林)、矢沢一輝(二軒在家)、山内翔(二軒在家)、佐藤佑介(大倉)、三瓶和人(大倉)、永井晃嗣(大倉)

●精績章

鈴木克英(只見)、鈴木僚(只見)

●功労章

鈴木基(只見)、鈴木克英(只見)、鈴木淳(只見)、大竹信一(只見)、新国善記(只見)、三瓶宏(只見)、吉津高弘(只見)、鈴木僚(只見)、長澤文男(只見)、酒井雅喜(只見)、鈴木尚(只見)、新国伸一(只見)、新国真也(只見)、鈴木佳憲(只見)、五十嵐健司(只見)

【消防庁長官表彰】

●永年勤続功労章

目黒邦友(只見)

【福島県知事表彰】

●精勤章

目黒邦友(只見)

●優良青年消防団員章

目黒大四郎(小川)

【日本消防協会表彰】

●精績章

佐藤長次(大倉)

●勤続章

鈴木好行(只見)、目黒邦友(只見)、佐藤長次(大倉)、三瓶友一(叶津)、吉津唯利(長浜)、鈴木嘉津雄(只見)

【福島県消防協会表彰】

●精勤章

酒井正直(叶津)、馬場芳也(蒲生)、菊地正夫(梁取)

【福島県消防協会表彰】

南会津支部長表彰

●功績章

鈴木基(只見)、吉田晃男(叶津)、岩淵秀一(黒谷)、飯塚幸宣(大倉)

●優良章

渡部義孝(只見)、酒井信和(只見)、山内衛(只見)、馬場英弥(黒谷)、横山忍(樺戸)、五十嵐和彦(福井)、増田功(黒谷)、山中美明(黒谷)、吉津健(黒谷)、菅家亮(黒谷)、酒井敦(長浜)、目黒公俊(熊倉)、飯塚和行(坂田)、星明弘(二軒在家)

●勤続章

藤田洋平(只見)、佐藤邦弘(只見)、馬場英弥(黒谷)、横山伸成(樺戸)、目黒大四郎(小川)、酒井祐世(黒谷)、須佐正弘(黒谷)、山中美明(黒谷)、吉津健(黒谷)、菅家亮(黒谷)、芳賀沼智(黒谷)、目黒公俊(熊倉)、飯塚和行(坂田)、星明弘(二軒在家)、川原田則夫(大倉)、馬場良元(梁取)、菊地浩(梁取)

【消防団退職表彰状(銀杯)】

●退職報償

鈴木嘉津雄(只見)、五十嵐良平(只見)、五十嵐利明(塩ノ岐)、荒井安行(布沢)

●感謝状

平野敏則(叶津)、鈴木嘉津雄(只見)



▲通常点検を受ける婦人消防隊

毎年11月に皇居で行われる新嘗祭で天皇に献上するための献穀米を栽培する献穀者に大倉在住の「三瓶清志さん」が選ばれました。



▲献穀米の苗を植える三瓶清志さん(右)と関係者

さんべ せいし 清志さん 49歳 Profile

- ▶昭和60年～ 就農
- ▶平成元年～ 父親から経営移譲を受ける
- ▶平成16年～ 只見町農業委員会委員
- ▶平成18年 有限会社さんべ農園を設立 (代表取締役)
従業員数13名
栽培面積 水 稲:約15ha/トマト:約1ha



町内で最初に農業生産法人を立ち上げ、昨年には有機米の栽培を始めるなど、積極的な経営に取り組んでいる。(写真右が清志さん、左は妻のやえさん)

平成24年度

新嘗祭献穀田御田植祭行う

只見町で25年ぶりの献穀者「三瓶清志さん(大倉)」

只見町から
25年ぶりの献穀者

只見町から献穀者が選ばれたのは、なんと25年ぶりで、前回の献穀者は梁取在住の「馬場専久さん」でした。毎年、福島県からは2名が献穀者に選ばれ、今年も三瓶さんと矢吹町の方が献穀者となりました。

5月22日に御田植祭

大倉地区の三瓶さんの献穀田では、5月22日に御田植祭が厳かに行われました。この日は朝から晴天に恵まれ、献穀田の前では神事が執り行われ、三瓶さんや目黒町長ら関係者が水田に入り、福島県オリジナルブランド米の「天のつぶ」の苗を丁寧に植えました。献穀田の面積は810㎡、その一部に手植えされた苗は春の穏やかな日差しを浴び鮮やかな緑色に輝いていました。献穀米は有機栽培で育てられます。

最高のお米を天皇に献上

三瓶さんは、あいさつで「災害の復興に向けてのいい機会になればと一生懸命育てたい。きれいな水と空気に恵まれた『自然首都・只見』で精いっぱい努力し、最高のお米を天皇に献上

言葉 MEMO



「新嘗祭」
毎年11月23日に行われる祭儀で、天皇陛下が、神嘉殿において新穀を皇祖はじめ神々にお供えになり、神恩を感謝された後、陛下自らもお召し上がりになる祭典。宮中恒例祭典の中の最も重要なもの。天皇陛下自らご栽培になった新穀もお供えになります。

「献穀」

献穀は、宮中の恒例行事の中で最も重要な儀式である「新嘗祭(にいなめさい)」に供するための新穀を各都道府県の精農家が献納するものであり、明治25年以来、今日まで続いている伝統的な行事です。

したい」と述べました。献穀米は、9月下旬に収穫され、10月下旬頃に皇居で行われる献穀献納式において、三瓶さんご夫妻が、5合の米を献上される予定です。